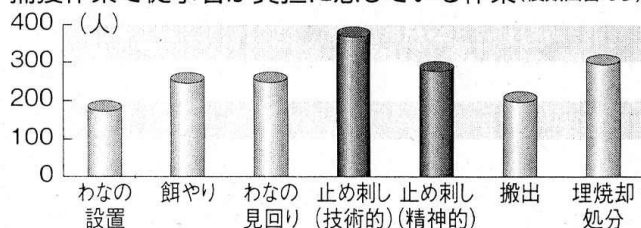


# 農業技術 プリズム

イノシシなどによる農作物被害を防ぐには、柵による防護対策や草刈り、収穫残さ処分によ

捕獲作業で従事者が負担に感じている作業(複数回答あり)



※長崎県狩猟免許所持者(2,434人)を対象としたアンケート(2012年度)。有効回答数 1,311件(53.9%)

## イノシシ捕獲作業の労力軽減 殺処分などが重荷に 負担和らげる工夫を

るすみ分け対策と共に、捕獲対策も重要だ。過去7年間、全国で最もイノシシの捕獲数が多い長崎県では、近年、罾を中心

に狩猟免許所持者は増加傾向にあるが、さらに捕獲数を増やすには、従事者数だけでなく、技

術向上や作業負担軽減が必要となる。そこで従事者の負担を明らかにするため、実態調査を行った。

その結果、従事者が負担に感じるのは、罾の設置や見回り、捕獲個体の埋焼却など、作業開始から終了までの全工程だ

中でも、捕獲個体の止め刺し(殺処分)は、技術的負担が29%、精神的負担が22%と、捕獲作業の大きな負担となっていることが分かった。

通常、止め刺しはナイフや銃を使うが、技術的・精神的負担から、この作業を他の人に依頼することもある。従事者の育成には、安全で効率的に捕獲できる新技術や制度などの導入が必要といえる。

県は、これらの課題解決のため、平戸市など11市町で、狩猟免許を持たない人も所持者とチームでイノシシ捕獲ができる「捕獲隊制度」に取り組んでいる。また、センサーなどで見回り作業などを減らす器材も導入している。

特に、主要な作業負担であった止め刺しは、安全で出血を伴わない電気止め刺し器を開発。今年度、共同研究した業者が販売する予定だ。さらに、大学や食品加工業者らと連携し、イノシシの資源利用研究も始まっている。

(県農林技術開発センター 平田滋樹)